

洪水・土砂災害への備え

日ごろからの備えが大切です

阪神・淡路大震災では、救助された人の約95%は自力、または家族や隣人によって救助されています。大規模災害時には、行政などによる救助・救援(「公助」)には限界があり、自分自身の身は自分で守る「自助」や地域社会で協力し助け合う「共助」が重要となります。万一の災害に備え、日ごろから準備しておきましょう。

身の回りにおける危険を知りましょう

◎ハザードマップなどを確認して、自宅や普段よく行く場所の周辺にある災害の危険性について知りましょう。

ハザードマップは、p.11～33をご覧ください。

避難場所、避難経路を確認しましょう

- ◎いざという時の避難場所、避難経路を確認しましょう。災害の種類によっては使用できない避難場所があるので注意しましょう。
- ◎避難経路にある危険箇所等にも注意しましょう。
- ◎緊急時の避難場所や連絡方法などの決まりごとについて、家族と話し合しましょう。

市が指定する避難場所の一覧を、p.61～63に掲載しています。



地域の自主防災活動、避難訓練などに積極的に参加しましょう

- ◎地域で協力することにより、災害を減らすことが可能です。
- ◎いざという時にあわてないように地域で開かれる避難訓練などに参加しましょう。

自主防災組織についてもっと知りたい方、ご相談がある方は、久慈市消防防災課へお問い合わせください。

非常用持ち出し品や非常用備蓄品を準備しましょう

- ◎災害が起こった場合に支援物資が届くまでに数日かかることも珍しくありません。いざという時に備え、非常食などの備蓄や非常持ち出し品の準備を行いましょう。
- ◎日常生活で消費しながら同時に備蓄ができるローリングストック法がおすすめです。

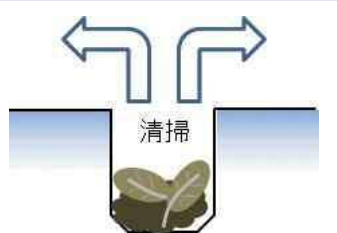
p.66の非常用持ち出し品、非常用備蓄品チェックリストを確認しましょう。



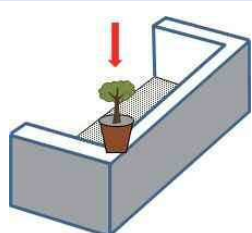
自宅の周りを確認しましょう

◎大雨や台風に向けて、家の周りを点検しましょう。

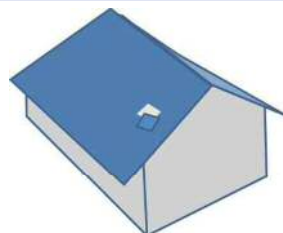
雨どいや側溝の破損、つまりなどが無いか確認しましょう。



鉢植えや物干し竿などが風で飛ばされないようにしましょう。



瓦やトタン屋根のはがれ、割れなどを補修しておきましょう。



雨戸や窓枠のがたつきが無いか確認しましょう。

